

すぐに使える学校情報（生徒指導提要）

生徒指導提要を踏まえたこれからの生徒指導 ～今こそ、意識を変えるとき！～

義務教育課・高校教育課

いじめや不登校児童生徒数が過去最多を更新し、それらの要因が複雑化・多様化するなど、生徒指導上の諸課題への対応は困難さを増しています。

そのような中、生徒指導提要が、昨年12月に12年ぶりに改訂されました。生徒指導提要を踏まえたこれからの生徒指導の在り方について理解し、教職員同士が支え合う同僚性を発揮して、生徒指導上の諸課題に適切に対応しましょう。



生徒指導の定義（提要p.12）

- 生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。

生徒指導の目的（提要p.13）

- 生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

生徒指導上の4つの視点（提要p.14）

① 自己存在感の感受

学校生活のあらゆる場で「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を児童生徒が実感することが大切です。

② 共感的な人間関係の育成

自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係を早期に創りあげることが大切です。

③ 自己決定の場の提供

授業場面で、自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の体験が重要であり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが大切です。

④ 安全・安心な風土の醸成

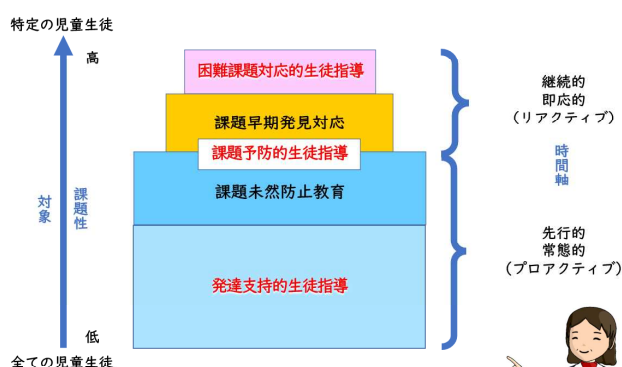
お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を、教職員の支援の下で、児童生徒自らがつくり上げるようにすることが大切です。

生徒指導の構造（提要p.17～23）

いじめや不登校等の全ての課題が、それぞれ下の「2軸3類4層構造」で提示され、各層ごとに具体的な対応や取組が記載されています。

課題や状況に合わせて、イメージしやすくなっています。

【2軸3類4層構造（重層的支援構造）】



これからの生徒指導の方向性

生徒指導提要を踏まえたこれからの生徒指導では、これまでの生徒指導のイメージを脱却し、意識を変えることが必要です

キーワード：「今こそ、意識を変えるとき！」

- ① 全校体制で取り組む児童生徒の成長・発達を支える「発達支持的生徒指導」にシフト

全ての児童生徒を対象に、全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤です。不登校をはじめ、諸課題の未然防止につながる「魅力ある学校づくり」に取り組むことが大切です。

- ② 教科の指導と生徒指導の一体化

学校生活の中で最も長い時間を過ごす授業で、教員が教科指導と生徒指導の専門性を合わせもつ日本型学校教育の強みを生かしましょう。

- ③ 学校内外の連携・協働に基づく「チームとしての学校」を実現した生徒指導体制の構築

地域の「思いやりのある大人」が、教員とともに連携・協働する体制を形作ることが大切です。

【関連資料等】

県ホームページに掲載
(生徒指導関係)

